

都産技研新本部開所式

10月3日（月）、都産技研新本部の開所式を開催しました。東日本大震災の影響で5月に予定していた開所が延期となりましたが、無事にこの日を迎えることができました。

開所式には、石原慎太郎都知事をはじめ、東京都議会議員の方々や近隣の研究開発教育機関、工業団体など、100名以上の方々にご出席いただきました。

式典の中で、石原都知事、鈴木都議会副議長、山崎江東区長から、激励のお言葉をいただき、片岡理事長は、新本部への思いと今後の抱負を述べました。

その後、来賓の方々と理事長によるテープカットが行われました。

式典終了後、新本部施設をご見学いただき、研究員に熱心に質問される姿も見受けられました。

新本部開設に当たり、今までご支援いただきました皆様に厚く御礼申し上げるとともに、今後より一層中小企業の皆様にご利用いただきますようお願い申し上げます。



開所式テープカットの様子

石原慎太郎都知事挨拶

みなさん、こんにちは。今日は開所式にご来場いただきまして、ありがとうございます。三多摩地方に続いて、また新たに中小企業を技術的に援助する立派な研究所が出来ましたが、日本の将来を案ずる私どもとしては非常にうれしい話です。

日本が持っている、特に東京に集中している中小企業が開発している先端技術は素晴らしいものがあります。私たちが持っている東京の中小企業のベンチャー・テクノロジーを、日本だけでなく世界のために活用するというの、非常に結構なことですし、大事なことだと思います。それを更に精緻に担保するための施設が出来たのです。皆さん、この建物を存分に活用・利用して、まさに国力の源である技術力をこの東京から大きく、更に幅広く開発していただきたい。都産技研は、その大きな大きな発信基地になると思います。皆さんのお知恵とお力をお貸しいただくことを熱願いたします。ありがとうございました。



理事長挨拶

本日は多数の方々にご出席いただき誠にありがとうございます。法人を代表して厚く御礼申し上げます。

振り返りますと、大正 10 年に開設した府立東京商工奨励館というのが都産技研の始まりです。それから数えて今年で 90 周年になります。この節目の年に、新しい本部を開設できたことを大変嬉しく思っていると同時に、今後の発展を職員一同誓っております。

都産技研は中小企業の支援を長年続けておりますが、バブル崩壊以降日本経済のスローダウンとともに、中小企業のおかれている状況が変わってきています。大企業の下請けだけではなく、自らの技術で、自らの製品を開発し、自らビジネスを進めていくことが必要となっています。

幸い、東京の中小企業には優れた技術がたくさんあります。この技術をさらに高め、高付加価値の製品にし、世の中に発信していく一助となることが都産技研新本部の重要な使命と考えています。

この臨海部には、産業技術総合研究所、日本科学未来館、芝浦工業大学、首都大学東京産業技術大学院大学、産業技術高専、といった優れた研究開発教育機関が多数あります。そういった機関と連携して、江東区をはじめ都内の中小企業支援を一層強めてまいります。平成 23 年は大変な年となりましたが、私どもも今まで以上に中小企業の支援を強めてまいりたいと思います。

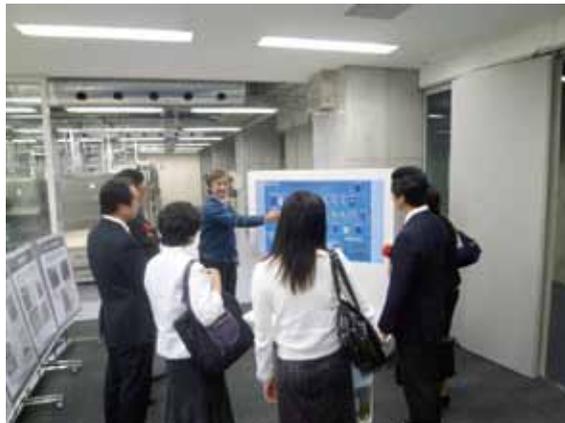


開所式 見学のご紹介

開所式終了後、ご来賓の皆様には都産技研の新しい設備や装置をご覧いただきました。見学の様子をご紹介します。



高度分析開発セクターの各種装置の説明



実証試験セクターで環境試験機器を見学



創作実験ギャラリーで開発製品を見学



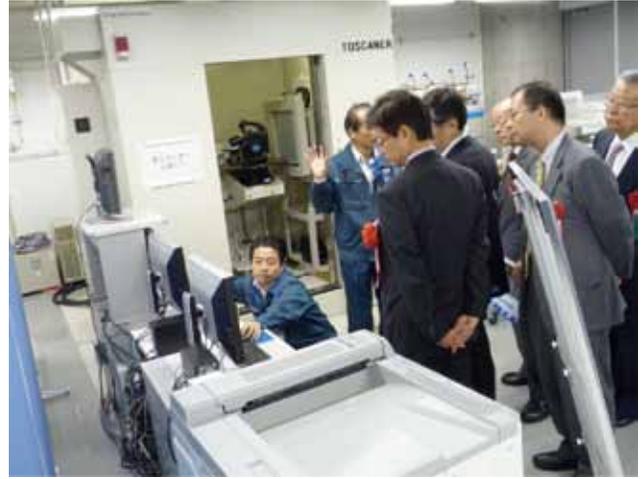
放射線測定についての説明



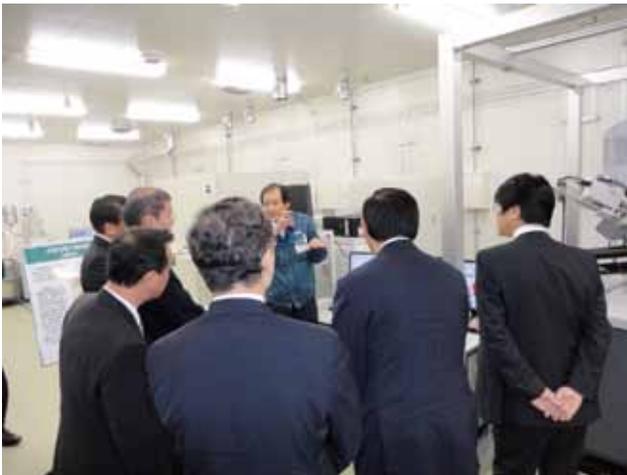
ガラス製造工程の見学



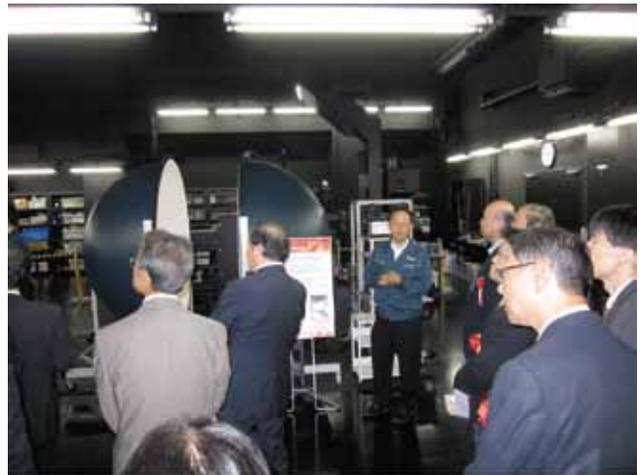
省エネ・節電対策支援の説明



非破壊試験の実演



走査型電子顕微鏡の説明



照明試験室の見学



高速造形機の見学



高電圧実験室の落雷実験見学